

第 20 回アジア競技大会・第 5 回アジアパラ競技大会 アクセシビリティ・ガイドライン検討会(第 1 回)

1 日時

令和5年6月27日(火) 15:00~17:00

2 場所

名古屋市公館 1 階 レセプションホール

3 出席者(五十音順、敬称略)

磯部 友彦(座長・中部大学 教授)

伊藤 則子(パラアスリート(中日新聞社))

岩間 康治(社会福祉法人名古屋ライトハウス情報文化センター 所長)

江崎 英直(特定非営利活動法人愛知県精神障害者家族会連合会 会長)

大槻 洋也(副座長・至学館大学 教授)

岡田 ひろみ(特定非営利活動法人愛知県自閉症協会・つぼみの会 副理事長)

加賀 時男(一般社団法人愛知県身体障害者福祉団体連合会 会長)

金子 芳博(社会福祉法人愛知県盲人福祉連合会 会長)

笹川 純子(社会福祉法人名古屋市身体障害者福祉連合会 聴覚言語障害者情報文化センター 所長)

佐藤 聡(DPI 日本会議 事務局長)

谷口 政博(愛知県障害者スポーツ指導者協議会 副会長)

辻 直哉(社会福祉法人 AJU 自立の家 常務理事)

濱田 智恵実(社会福祉法人名古屋手をつなぐ育成会 副理事長)

平松 哉人(公益財団法人愛知県老人クラブ連合会(社会福祉法人愛知県社会福祉協議会福祉生きがいセンター) 所長)

廣瀬 誠(パラアスリート(愛知県立名古屋盲学校 教諭))

水野 樹里(一般社団法人愛知県聴覚障害者協会 事務局長)

三宅 克己(一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 理事)

村井 裕樹(副座長・日本福祉大学 准教授)

柳原 康来(愛知障害フォーラム 事務局次長)

4 議題

- (1)アクセシビリティ・ガイドラインの方向性について
- (2)アジア競技大会・アジアパラ競技大会にかかるアクセシビリティ全般について

5 議事録

(1)あいさつ

愛知県スポーツ局長

皆様、こんにちは。本日は、ご多忙の中、「第 20 回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会アクセシビリティ・ガイドライン検討会」に御出席をいただき、誠にありがとうございます。

また、日ごろは、アジア競技大会及びアジアパラ競技大会の推進につきまして、格別のご理解とご協力を

賜ります、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

さて、アジア最大のスポーツの祭典であるアジア競技大会・アジアパラ競技大会を、ここ愛知・名古屋で開催するにあたりまして、大会に参加するアスリートが最高のパフォーマンスを発揮するとともに、年齢や性別、障害の有無などに関わらず、すべての方がスムーズに観戦できる環境を整えることが大変重要であると考えております。そのため、ハード・ソフトの両面からの対応により、選手を含めて、誰もが快適に大会を楽しんでいただける環境づくりを進めてまいりたい、今回、両大会のアクセシビリティに関する指針としてガイドラインを策定することとしました。

このガイドラインの策定にあたっては、学識者や当事者団体、パラアスリートなどの皆様方に検討段階からご参画いただきまして、皆様とともにガイドラインの策定を進めていきたいと考えております。また、座長の磯部先生には、本検討会の取りまとめをお引き受けいただきました、誠にありがとうございます。何卒よろしく願います。

委員の皆様には、忌憚のないご意見・ご助言をいただくとともに、アジア競技大会・アジアパラ競技大会の成功、さらには多様性を尊重し合う共生社会の実現に向けまして、格別のご理解とご支援を賜りますことをお願い申し上げます、冒頭のあいさつとさせていただきます。

(2) 事務局説明

事務局より、議題について、資料 1、2、3、参考資料 1、2 をもとに説明。

(3) 議題

I アクセシビリティ・ガイドラインの方向性について

磯部座長

議題1の「ガイドラインの方向性について」、議論をしたいと思います。全般的なご意見等につきましては、次の議題2で各委員の皆様にご発言いただく時間を設けております。

それでは、議題1についてご質問がありましたら発言をお願いいたします。

辻委員

まず今アクセシビリティ・ガイドラインの概要について説明いただきましたが、2013年6月版の「IPC アクセシビリティガイド」の199ページ、「第5章 アクセシブルでインクルーシブな開催都市、大会を目指して」に、「大会は会場とイベントだけに関わるものではない」と書いてあります。

これは開催都市が、ただ単に大会をやるだけではなくて、街全体を変えていきなさいと。その中には、バリアとなっているものとしては、建築の障壁だけではなく、人々の態度、政治的、経済的、さらには教育上のバリアも取り除くことと書いてあります。具体的なものとして、交通、そして公共サービス、公共施設、さらには観光エンターテインメント、レジャー、スポーツ、教育というものも入っております。今回はアジアパラ競技大会なんですけれども、障害の有無に関わらずスポーツを通してインクルーシブな社会を目指すことが目的であり、ただ単にスポーツのイベントではないということですから、これから策定するガイドラインにも、第5章の部分を盛り込むべきと考えますが、いかがでしょうか。

磯部座長

委員がご覧になった2013年6月版のIPC アクセシビリティガイドは、ロンドンオリンピックの後に整理されたものでございます。その後、リオ大会や東京2020大会が開催され、段々と精緻化されてきていますけれ

ども、早い段階でそうやって、特にオリンピックだとオリンピック開催都市としてのステータスというか、市民の立場というか、そういうのも大事だよ、というのもその頃から言われているところでもあります。

今回はそのあたりをどう考えていったらいいかな、というご意見ですけれども、事務局からお願いします。

事務局(組織委員会)

第5章の「アクセシブルでインクルーシブな開催都市、大会を目指して」の部分は、非常に大事なポイントだと認識しております。ただ、大会まで私どもは2026年に大会を実現しなければならないということで、今回、まずは技術基準のところをしっかりと固めさせていただきたいということで、本日の骨子案の方を提示させていただきました。

ご指摘の「アクセシブルでインクルーシブな大会運営」については、技術基準の部分に織り込めるものをまずしっかりと織り込んで参りたいと思いますし、また、大会運営、そして大会後の街づくりも見据えて、開催都市と組織委員会と一緒にあって取り組んでまいりたいと思います。貴重なご意見ありがとうございます。

江崎委員

私は、地域で障害者スポーツに関係していますが、現状では、身体・知的・精神の3つの障害の合同大会として、障害者だけのスポーツ大会ということでやっています。障害者だけのスポーツ大会と健常者だけの地域のスポーツ大会とが分けてやっているんですね。「障害者差別解消推進条例」などが制定、公布されるという今の時流に踏まえれば、やはり地域のスポーツ大会の中で障害者も共に参加できるような形になっていくのがあるべき姿ではないかなと思っています。

このアジア競技大会を機に、ぜひ、市町村のスポーツ推進委員とかまちづくりとかそういう方たちも巻き込んで、インクルーシブなスポーツ大会ができて、ただ単にアジア・アジアパラ競技大会を開催するのではなくて、地域によりプラスとなる、成功していく方向に持っていけないかなと思います。

磯部座長

今の問題は組織委員会だけの問題じゃない、関係する自治体、市町村での課題でもあります。まだこれから何年かありますから、いろんな地域イベントを通して盛り上げるということもあるのかなと思いますので、ぜひ、各自治体市町村への働きかけをお願いしたいな、というご意見だと思います。

事務局(名古屋市)

このアジア競技大会、アジアパラ競技大会を契機に共生社会を推進していくということで、障害のある方、ない方、皆さん、スポーツを楽しめるような大事な機会になると認識しております。

名古屋市では、様々な部局の中でもスポーツの推進、それからパラスポーツとか、皆さん誰もが楽しめるようなスポーツを推進しておりますので、大会まで地域の方、色々な皆さん一緒になってできるように考えていきたいと思っています。また、併せて色々なところで普及啓発等を進めております。例えばボッチャとかを皆さんと一緒にできるようにということでやっております。名古屋市は、基礎自治体という側面もありますので、そういった観点を持って進めていきたいと思っています。

佐藤委員

私は東京2020大会のアクセシビリティ・ガイドラインの策定等にバリアフリーの取組に関わりました。東京2020大会で見直されて、大きく進展するきっかけとなったと思います。ですので、愛知・名古屋アジア・ア

ジアパラ競技大会でも、インクルーシブな社会づくりにつながって欲しいと願っています。

方向性の中で法的拘束力がないというお話がありました。その通りだと思うんですけども、東京 2020 大会でも同じように法的拘束力はなかったのですが、国立と都立の建物は既存施設の改修でもガイドラインを遵守し、素晴らしいスタジアムの改修になりました。日本武道館は民間所有でしたが、こちらもできるだけ守ってもらうように働きかけ、良い改修になったと思います。このように、ぜひ、既存施設も含めてガイドラインを遵守してもらえるように働きかけてほしいと思います。そして、大会終了後は愛知県のバリアフリーの条例にこのガイドラインを反映し、レガシーとして次の時代に引き継いで行って欲しいと思います。

事務局（愛知県）

今回はアジア・アジアパラ競技大会に向けてのガイドラインということで作成することとしており、直ちにこのガイドラインを条例の方に反映するということは今時点では検討しておりませんが、いただいたご意見を担当部局と共有させていただきますので、その点は何卒ご理解をいただきたいと思います。

柳原委員

やはり既存の施設の活用というところが大きいことは重々承知しているのですが、次世代に誇れるものを残せるか、そういったところを加味して考えていく必要があるのかなと思っています。こういう大会があってこういうところが誇れるんだということを後世に伝えられるような大会にしていきたいなと思っています。

事務局（組織委員会）

大会で終わってしまうのではなくて、大会後に何を残せるのかというのは非常に重要なところだと思いますので、開催都市とも連携し、今日以降の議論も踏まえまして、しっかりとできる限り対応していきたいと考えております。

岡田委員

既存施設の活用ということで、私たちも障害者の団体として名古屋市さんと一緒に東山テニスセンターとか、今度の大会で使われるようなところを現地調査させていただいて、色んな意見を多く出しました。そしてこの大会が選手だけではなく、障害のある人が楽しんで見ることができると競技大会にしていきたいと思います。

発達障害、自閉症の人向けに、施設面だけでなくソフト面でも表示の方法とか色々考えていただいて、誰もが楽しいスポーツ大会になればいいなと思っていますので、ぜひよろしく願いいたします。

事務局（組織委員会）

具体的にどういった表示が適切なのかとか個別に聞き取りなどをさせていただく機会もあるかと思いますので、その際はぜひ各委員様にもご協力いただければと思います。

磯部座長

ここまでは、大きな方向性についてご意見をいただきました。

もう一度繰り返しますと、今日の資料1の8ページ、大会の参加者、関係者、また関係者の中には色々な方も入りますが、それぞれのニーズに応える、大会を契機としたアクセシブルな環境整備の促進という話で、ハード、ソフト両面の国際的水準に基づくという話ですね。それをしっかり目指していただきたいなと思っています。

ます。そして、9 ページの 1 番下の部分ですが、障害のある人や高齢者、子育て当事者や街づくり・障害福祉の専門家の多くの方に関わっていただき、みんなで作り上げた大会を目指したいということでございます。専門家は、大学の先生だけではありません。皆さんが専門家です。皆様はそれぞれにしかない観点を持っている方々ですから、そういう方々の知恵で色々といい大会にさせていただきたいと思っております。このような方向性でガイドラインを策定したいということでございますけれども、ご了解いただけますでしょうか。また細かい話は追々、2 回目、3 回目に文章化して完成していくと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

II アジア競技大会・アジアパラ競技大会にかかるアクセシビリティ全般について

磯部座長

議題 2 の「アジア競技大会、アジアパラ競技大会におけるアクセシビリティ全般について」、委員の皆様にご意見を伺ってまいります。ご意見の中に質問があった場合には最後に事務局よりまとめて回答させていただきます。

本日欠席の子育て支援 NPO まめっこの中井様からは事前にご意見を頂戴しておりますので、委員に代わって事務局にご紹介いただけますでしょうか。

事務局(組織委員会)

名古屋駅などの主要駅について、この機会を好機としてできる限りの整備を行ってほしいという観点で 4 点、中井委員からご意見をお預かりしましたので、代読させていただきます。

1 つ目が、バリアフリールートを表示の改善についての意見です。

すぐに行える部分として、エレベーター、スロープのあるルートを分かりやすく表示してほしいです。現在、地下鉄出入口からエレベーターのある出口まで、点字ブロックに緑のラインを引いているようですが、名鉄の出入口にはありません。JR は普段使っていないので分かりませんが、この大会を機に、異なる運営事業者間での差をなくし、表記の統一を行っていただければと思います。また、大会開催にあたっては外国人の方も多く来日されると思うので、言語に頼らない表記が望ましいと思います。東京や福岡、博多駅は初めて行っても少しキョロキョロ見渡せばエレベーターやトイレの表示が目に入っていますし、他路線への乗り換えもラインをたどっていけばグーグルマップに頼らなくてもスムーズに行くことができます。なぜか地元であるはずの名古屋駅の方が迷子になります。特に地下鉄からのバリアフリーのアクセスが非常に分かりにくいので、ぜひ他都市を参考にいただき、改善をお願いいたします。

2 つ目が電車内のアナウンスについてのご意見です。

毎回バリアフリー関連の会議で発言していますが、電車内でのアナウンスは聴力に問題がない私でも聞き取れないことが多いので、意味がないと感じます。アナウンスではなく、電光掲示板などの利用を推進していただければ、利用する全ての人にとって便利になるのではないのでしょうか。

3 つ目は男女共に使える子ども連れ用設備を設けてほしいというご意見です。

男性一人で子どもを連れて外出される方がずいぶん増えましたが、まだまだ男性トイレにはベビーキープがなかったり、ベビーカーを入れられる個室がなかったり、おむつ交換台の設置がなかったりします。授乳室も女性専用であることが多く、男性でも使える、もしくはファミリーで使える授乳室など子どもをケアできる設備の整備をお願いしたいです。一方で、盗撮の危険があるため、防犯カメラを入りに設置したり、定期的にカメラが設置されていないか確認は必要です。

4 つ目ですが、双子ベビーカーへの配慮のお願いについてのご意見です。

近年、不妊治療を経て出産に至る人が増えたのか、双子率が昔より高くなっています。双子用ベビーカー

は通常より大きくなってしまいますので、小さなエレベーターだと乗ることができません。費用やスペースに限りがあるのは承知していますが、新設される場合には、エレベーターの大きさや通路の幅の基準に双子用ベビーカーが入れるかどうかを入れていただきたいです。

以上、4点のご意見がございました。

加賀委員

昨年度、「アジア競技大会・アジアパラ競技大会を活用した地域活性化ビジョン」の策定に関わる有識者会議に参加させていただきました。その時は委員9名中、障害者団体からは私一人だけでしたが、今回は障害者団体や障害者当事者の皆さんが多くいらっしゃるの非常に心強く思っております。

この度策定するアクセシビリティ・ガイドラインには、横文字が並んでいるわけですが、高齢者でもある私にとっては、のっけから面食らうわけでございます。専門用語や日本語を意識しにくいものがあるかと思いますが、例えばガイドラインは指針、ステークホルダーは利害関係者などと日本語に置き換えることはできないのでしょうか。いずれもビジネス用語として既に確立、認知されているということであれば仕方ありませんが、なるべく楽にわかる平易な言葉を併記するなどしていただければありがたいと感じております。

佐藤委員

細かい話になるのですが、車いすの席について、Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドラインと大阪関西万博ユニバーサルデザインガイドラインの基準を踏まえたものにしていただく、その方向性はとてもよいと思います。車いす席は、サイトラインの確保が非常に重要ですので、ぜひ盛り込んでいただきたい。具体的に、車いすの目の高さは105cm、前の席の人の身長は175cm以上で想定していただいて、視界が確保できるように設定していただきたいと思います。あと、介助者等の同伴者席は必ず横の席にする設定としていただきたいです。

また、車いす席の前の手すりは転落防止のため設置すると思いますが、高いと視界を遮りますので75cm以下(国立競技場はこの数値)にしていただきたいです。そして、車いす席は1か所に固めるのではなく、垂直水平分散するように盛り込んでいただきたいと思います。垂直分散というのは1フロアだけでなく複数のフロアに造るということです。水平分散というのはフィールドを囲んで色々な所から見られるように造るという考え方です。他にも、ホテルが含まれているのはとても良いと思うのですが、現在、バリアフリールームは1%義務化が日本の基準ですが、国際的には3~5%なんですね。ですので、少しでも引き上げることはできないかと思っています。あと、公共交通、店舗のバリアフリーももう少し盛り込めないかなと思っています。

笹川委員

私は聴覚障害の当事者です。今回のアジアパラ競技大会は、聴覚障害者の選手は対象ではないですが、見る方々、関わる方など聴覚障害者がいるということを前提に意見を言っていきたいと思っています。この会議だけではなく、どうしてもまちづくりとか設備とか施設全てとなると、どうしても「見えるバリア」のことが多いんですけど、そうじゃなくて「見えないバリア」、つまり聴覚障害とか知的障害とか、そういった見えないバリアのところも、ぜひ力を入れていただきたいと思います。いただいた資料では、どうしてもスロープや手すり等の設置とか高さとかそういうところもすごく大事なんですけど、全ての音声言語を見える化にしていただきたいと思っています。先程、中井委員の意見にもあったように、見える化することは聞こえない人だけでなく、全ての人に対してもやさしいと思いますので、お願いしたいと思っています。

あとは、今回策定するガイドラインは、東京2020大会をベースにするんですけども、東京2020大会

はコロナによって制限がありました。今回のアジアパラ競技大会からおそらく制限もなくなって、東京の時よりもっといろんな可能性があると思いますので、今回の大会が後世に繋がる大会となると期待しています。

水野委員

愛知県では前、国際大会が開かれました。その時、いろんな障害者が集まりましたけれども、バリアフリーはまだまだ進んでいませんでした。ホテルの客室のテレビをつけても、字幕が出なかったんです。リモコンに「字幕ボタン」はあったけれども、それを押しても字幕が表示されないの、ロビーに行って要望して、字幕が表示できるようにセッティングをし直してもらったという経験があります。

また、電車の中でも車内の様子を見ますと、電光掲示板というのがほとんどないですね。事故が起きた場合、電車が遅れますとか、どのくらい遅れますという表示が全くありませんので、私ども聴覚障害者としては何分に何が起きたかという情報すら掴めず、何も分からない状態です。

このアジアパラ競技大会につきましても、本当にアクセシビリティがちゃんと成功できるのかどうか不安を持っております。アジア競技大会において、私ども聞こえない者もスムーズに楽しめるように、盛り上げられるような大会を目指していただければと思います。

辻委員

私からは3点あります。

資料2の2-5-3の鉄道輸送の部分に関して。鉄道のホームですね。特に地下鉄ですけれども、ホームの段差の解消をお願いしたいという部分です。以前、名古屋市の「福祉のまちづくり推進会議」でもお願いしたところ、名城線以外は今のところ計画がないというふうに回答されました。ロンドンオリンピック・パラリンピックの時も、それこそロンドンの地下鉄、世界一古い地下鉄ですけれども、このあたり、やはり段差の解消にも取り組まれたようです。これぐらいだったら私は、ぜひやっていただきたいなと思いますので、2026年に間に合うようにぜひお願いしたいと思います。

続いて資料2 2-3、今度は宿泊施設の部分です。これも宿泊サイトを見ると愛知県内で探すと、約400あるそうです。ただ、そのうちバリアフリールームがあるかというところにチェックを入れると103件で、宿泊施設だいたい1か所につき100部屋~200部屋あるところでもバリアフリールームの部屋は1つしかない、非常に少ないんですね。名古屋市は、宿泊施設のバリアフリー化に必要な経費の一部を助成する事業が始まるそうですけれども、ぜひ愛知県も取り組んでいただきたいなと思います。先ほどDPIの佐藤さんから話がありましたように、国際的には3~5%ぐらいが標準ですよ、というわけですから、今回、この大会を機に、宿泊施設に困らないような、ぜひそういうバリアフリーの部分に取り組んでいただきたいと思います。

最後に、レストランや食事でもバリアフリー化をお願いしたい。ただ単にスポーツを見に来るだけじゃないと思うんですね。やっぱりおいしいものを食べたい。せっかく海外から名古屋に愛知に来るわけですから、そうした時に安心して障害がある人もない人もみんな食事を楽しんで、そして大会もみんな楽しんで。そういう大会をぜひ目指していただきたいなと思います。

柳原委員

昨年度まで大学に通っていましたが、大学の友達と「アジア競技大会あるんだよね」という話をすると、すごくみんな興味を持っているという印象を受けました。友達同士、家族であったり、いろんな関係性があると思うんですが、その方々がしっかりと家を出るところから帰るところまで楽しめる大会にしていきたいなと思います。それはバリアフリーであるということはもちろんそうですが、それプラス一緒にその場を盛り上げるこ

とができる、例えば障害者だけがちょっと待ってもらおうとかではなく、みんなが同じようにこの大会を楽しめる、そういう大会にしていきたいと思っております。

具体的には、先程辻委員からあったように食事とかそういうところは、やっぱり人が生きていく上で必要なことでもあるので、それだけは考えていただけるとより良くなっていくのかなと思っております。

三宅委員

ハード面は委員の皆様がおっしゃる通り出来る限りバリアを解消して欲しいです。ハード面に関しては重複する部分が多い為、ソフト面についてお話したいと思います。

実際に東京でパラリンピックがあったことによって、ある程度、認知は広がってきたとは思いますが、今までで一番成功したパラリンピックと言われるのが2012年のロンドンパラリンピックで、パラリンピックが終わった後に世界陸上が開催されました。その時にパラリンピックと変わらないぐらい、外の人が見に来たりして何万人と来てくれたそうです。でも、東京パラが終わった後とか日本でパラリンピックの陸上大会や車いすバスケの大会をやったりとかいろんな競技をやっても、観客がほとんどいないんですね。実際に、目の前で一般の人がパラリンピックの競技を見た時に勇気や希望や感動や、こんなすごいスポーツがあるんだって、やっぱり目の前で見ないと分からないことがたくさんあると思いますが、障害者スポーツって一般の方はほとんど興味がなかったりとか、大会が終わったらもう忘れられてしまうってことが多いなど。

私は、日本車いすバスケットボール連盟にずっと関わっていますが、どうやって一般の人に認知してもらい、興味を持ってもらってソフト面を充実させるかといった時には、まず見てもらわないと話にならないし、知ってもらわないと話にならないと思っています。名古屋市や愛知県でも、体験会ポッチャとか色んなものをしていただいています。成功したものの中に、もう一つは「I'm Possible」っていう全国の小中高にパラリンピックの教材を使って授業を行うものがあります。まず子どもたちに知ってもらうことによって、お父さんお母さんに興味を持ってもらって、さらに、おじいちゃんおばあちゃんに興味を持ってもらう、というように広げることができます。ぜひ予算を付けて、2026年に向けて体験会、講演会、企業研修、イベントなど啓発事業やってほしい。そういう体験や講演会とかが増えると、とても嬉しいです。

一般の人は、障害者に対してどう接していいかわからないことがたくさんあると思いますし、それでバリアがなくならないこともありますが、人が手伝えればバリアは解消されます。小学校や中学校に行く機会がありますが、校内に階段があって車いすで登れなくても、みんなが手伝ってくれて、そこに障害がなくなってしまうということがよくあります。まずは、障害者やパラスポーツに興味を持ってもらったり、体験会などに参加してくれると、日常から私たち車いすとかいろんな障害者がお店に行ったり街中に行くと、一般の人がスロープつけないといけないとか、ここバリアがあるんだなって気づいてもらえるんじゃないかなと思っています。

伊藤委員

私は、東京2020大会に、バドミントン女子ダブルスで出場しました。その時もすごく感じたんですけども、ハードはもちろんですが、本当にすごくそれに関わってくださる人、ボランティアさんの力というのがすごく大きかった。バドミントンの会場は、国立代々木競技場第一体育館で、2019年のプレ大会の時に、車いす用のスロープが設置されたんですが、とても傾斜がきつくて選手が一人で登るのにとっても苦勞するという状況などもありました。結局、最終的には、人が押す形で大会当日は運用されていたと思います。なので、ハードはもちろんですが、それに関わってくださる方の教育とかしっかり行っていただきたいなと思っています。

あと、東京2020大会は無観客でしたが、今回は、障害があってもなくても、多くの方に会場に足を運んでいただきたいなと思っています。パラの競技は、本当に一般の方の観客がすごく少なくて、関係者しかいなか

ったり、小学生が動員されて見に来るといったことが多いんですけども、もちろん一般の方にも知っていただきたいですし、障害の当事者の方々にも見ていただいて、自分も始めたいなと思っていただくきっかけになったら、選手としてすごく嬉しいので、そういったPRもしていただきたいと思います。

今回は、選手村ではなくてホテルを活用されると聞いています。選手としては、本当は選手村の方が大会に向けすごく気持ちも上がるんですけども、選手村は競技会場から離れていることが多く、私たち障害者としては、ホテルの方が移動距離が減るのでホッとしているという部分も実はあります。ただホテルだから快適かと言われると、遠征で色々行きますが、実際にバリアフリールームというのはとても少ないです。私は下肢の障害、切断ということで、シャワーにシャワーチェアがないととても大変なんですけれども、そういったものもないというホテルも結構あり、片足でシャワーを浴びなくてはならず疲労が取れないということも色々ありました。また今後そういった具体的な話の中で、実際自分が困ったこともお話をさせていただけたらなと思っております。

廣瀬委員

パラアスリートという立場で出席していますが、先程の三宅委員のソフト面の話は全く同感です。

障害者が、健常者と比べていろんなところで不自由になっているという点でいうと、障害者の住みやすい社会というのは、全ての人が住みやすい社会だと考えています。そういう意味で今回の大会がきっかけに障害者の人が住みやすい社会を考えるのにはいいチャンスになるのかなと思っております。

自分は視覚障害ということで言うと、先程、バスや地下鉄に乗る時に放送が聞き取りづらいし、電光掲示板を充実させた方がという意見もあったかと思うんですけども、視覚障害の立場としては放送をすごく頼りにしています。聞き取りづらいついていうところはあるかもしれないけど、全くなしになると視覚障害者のアクセスが非常に不自由になってしまうので、聞き取りづらい部分はなくしていくような形で放送は残していただけると、大会が終わった後も住みやすい社会になるかと思えます。

もう一つ、タッチパネルのものが増えています。目の見える方には非常に便利で、うちの家族でも使っていますが、視覚障害者が触れるとどんどん次の画面にいつてしまつて全然分からなくなつてしまいますので、タッチパネルだけではない何か工夫をしていただけるとありがたいなと考えております。

谷口委員

私は、普段、障害者スポーツの指導をしていて、どちらかというとトップアスリートを育てるというよりは、普段そもそもスポーツをする機会もあまりないような、できないような人たちにスポーツの楽しさを教えるようなことを主にやっています。そういう立場からのお願いですが、この大会、愛知県、名古屋市のいろんなところで開催されるわけですけど、そういった大会を協議・検討することも含めていろんなご意見が出て、いろんな施設の整備とか、ハード面、ソフト面を含めて非常に良い方向へ向かっていただきたいなと思うのですが、ぜひとも、これが開催都市とか開催場所だけで終わってしまうのではなくて、先ほども大会後のというお話があったんですが、そういったものがいろんな地域、周辺地域に広がっていくように、ぜひともそのところはこれを契機にお願いしたいなと思います。レガシーということで、時間的なこともそうなんですが、地域的なことの広がりもぜひともお願いしたいなと思います。そういったアスリートだけではなくて地域に障害を持つ人、持たない人も含めて全てなんですけど、少しでもスポーツを楽しめるような環境ができるように進んでほしいなと思っています。

平松委員

日頃、障害者スポーツの事業を担当しておりますけれども、本日の会議は老人クラブ連合会ということで、高齢者の立場ということで発言をさせていただきます。

今、老人クラブ連合会が各市区町村にごさしまして、元気なお年寄りがたくさん、いかに地域に出て健康で生きがいつくりするか、そんなことを課題にやっているんですけれども、いかに元気なお年寄りの方を大会会場に引き寄せるかというのが一つのテーマだと思っています。家に引きこもらずにできるだけ外に出て見たり経験したり体験することが非常に大事だと思っております、その意味ではこのアジア・アジアパラ競技大会というのは、非常に高齢者にとっても千載一遇のチャンスと私は思っております。ぜひ、高齢者にとってもワクワクするような魅力のある大会としてほしいと思っておりますし、先程からも皆さんご意見が出ておりますように、この大会の魅力をいかに広報して、何度でも足を運びたくなるような魅力のある大会をすることが非常に大事だと思いますので、大会の魅力を広報することにぜひ力を入れていただければと思っております。

それから、先ほどからも皆様から意見が出ている案内表示の話、やはりこれは高齢者にとっても、障害のある方にとっても表示を見やすくする、字を大きくして見やすくする、あるいは電光掲示板を有効に活用するというのが、どなたにとっても分かりやすいということもありますので、ぜひ力を入れていただければありがたいなと思っております。

それから各論ですが、トイレの数の話ということなんですけれども、私もいろんなスポーツイベントやいろんな各地のイベント、観光地に行きますと、かなり女性トイレが男性トイレと同じ数だということで、いつも女性トイレに行列をなしているという光景を見かけます。今回、多機能トイレということで検討するというのももちろんこれは非常に大事な問題でありますけれども、果たしてこの男性トイレの数と女性トイレの数は同じでいいのかどうかとか、そういったことの議論も必要かと思っております。女性専用トイレの確保というのが非常に大切であるということはこの場で申し上げておきたいと思っております。

最後に、ソフト面でのアクセシビリティという観点から、例えば会場外において会場に行くまでのアクセスを案内できるようなボランティアさんの存在というのがありたいなと思っております。

岡田委員

資料 2 のところのアメニティのところ「カームダウン/クールダウンルーム」の設置が記載されております。発達障害・自閉症の方がパニックになったとか、落ち着けないときにはこのカームダウンルームなどが必要で、これが大阪万博のガイドラインに盛り込まれたということで、ぜひこちらをお願いしたいなと思っております。

もう一つ「センサリールーム」というものがあります。これはぜひサッカーの豊田スタジアムとか瑞穂のところに作っていただけたら。発達障害の人で音はちょっと苦痛だけれども、サッカーは大好きという人がたくさんいるので、ぜひセンサリールームの設置をお願いしたいなと思っております。

うちの息子は知的障害の重い自閉症なのですが、東京 2020 大会でボッチャがすごく話題になって、息子の施設でもボッチャを始めました。ボッチャは本当に障害の重い知的障害のある人でも楽しめるということで、月に何回かボッチャを楽しめるようになったそうです。そういうような形でこういう機会があれば、ボッチャ以外にもまだ取り組めるような競技が広がっていくといいなと思っております。

それと、やはり皆さんもおっしゃっているように、分かりやすい表記がとても大事だと思っておりますので、名古屋駅は分かりにくいという評判になってしまっているんですけれども、青い線をたどっていったら目的地に着くというような分かりやすい表示をしていただければいいなと思っております。

江崎委員

精神障害者の置かれた状況や体調をつぶさに見ていると、統合失調者なんかは特にそうなんですけれど

も、精神障害者がこういう大会を単独で見に行けるかという、不可能に近いと思います。障害や病気を併せ持って社会の中で生きていくという立場を精神障害者は併せ持っているということです。

何が言いたいかというと、通称「B 型」とか「A 型」とか呼ばれますが「就労継続支援事業所」に通って、1日5時間ぐらい働いて、家に帰ってくると、食事を食べたからお風呂に入って朝までずっと寝ている。そして日曜日なんか一日寝ている。そのぐらい体としては疲れやすい。大変疲れているという状況の中で生活しているのが実態です。それから B 型の場合、大体平均賃金が月1万円ぐらいですので、こういう大会のチケットを買って、自分の足で交通機関を使ってということになると、非常に出費が大きく、不可能です。事業所で働いてお金をもらうのも一つの楽しみですし、障害者年金を足しても収入7万円、8万円では自立などとても難しいです。そういう中では、どこに生きがいを持っていくかという、こうやって皆さんでどこかに遊びに行く。例えば、いちご狩りに行くとか、明治村に行くとか、単独でできないそういうイベントなんかに参加して、生活の楽しみを併せ持ちながら充実した人生を描くということがあります。

では、どういうふうに参加するのが一番いいかという、翌日は事業所が休みの時に狙って、事業所の車で行って、そして団体で観戦するとか、そういう形になります。事業所の方が連れて行って観戦するというのが一番現実的な形だということがあります。本当は行きたいんです。だから、そういうことを福祉事業所の関係者と連携して参加するような道を開いていただけたらいいと思います。

精神障害者の場合、段差とかは支障にならないんですけれども、合理的配慮としてクールダウンとか休める場所と、そういうところに行くことができるような環境を整えば、観戦できる者が増えると思います。

岩間委員

視覚障害当事者です。私から3点お願いがあります。

まず、ソフト面について、たぶん次回の検討会で説明いただけると思いますが、資料に「トレーニングを受けたスタッフが対応」と書かれています。このトレーニングというのがどういうものなのか。ぜひ当事者、関係者が講師となってトレーニング研修を受けられたスタッフが対応してほしいということが1点です。

2点目、視覚障害者は情報収集が困難というところがありますので、その場その場の対応、会場とかその場の対応というのはなかなか難しいので、事前に情報提供をお願いしたい。例えば、点字、音声、アクセシブルなホームページを作成していただければと思います。

最後に、先ほど事務局の方々とは名刺交換しましたが、点字が入っている方が3、4割くらいしかおらず、6、7割の方は点字が入っていない名刺でした。ぜひ、点字入りの名刺を作っていただければと思います。

金子委員

私どもは、県内の視覚障害者が一般会員として集まった会で、いろんな事業をしております。

一般の視覚障害者は、普段から卓球、野球、それからテニス、柔道、水泳、あらゆるスポーツを楽しんでいます。野球は、今、「グラウンドソフトボール」と言っていますが、時代の流れで近いうちに名前を改名しようという、分かりやすい名前にして普及活動をしようという運動をしております。

一般の視覚障害者がスポーツを楽しむ場合、会場などの手配が難しく活動しにくい面があります。野球であれば、グラウンドを探しても平らな平地がなくて、草ぼうぼうのところやったり、卓球だと、スポーツセンターの順番待ちとか、抽選とか、会場確保がものすごく難しく、普及活動に困難をきたしております。

我々は一般的に家に籠りがちの人たちを一人でも多くスポーツを楽しませたいという活動しております。ぜひ大きな大会をするだけじゃなくて、我々は大きな大会を見ることによって一つ先の目標を目指して生きていくということが夢となるので、また協力をよろしく願います。

濱田委員

私たちの団体は、知的障害がある人の親と支援者の団体です。私も息子に重い知的障害がありますが、見た目ではあまり障害が見えません。

大事なのは、一番は「心のバリアフリー」だと思っています。その人が分からないかなということを考えて、自然と分かりやすい説明とか分かりやすい表示とか、右行って左行ってこっちだよって言うんじゃなくて、分からない人にはそこまで連れてってあげるとかできる。そういうことがありがたいと思っています。昨日も鶴舞公園の表示を見てきましたけれども、せっかくエレベーターがあるのにこの先エレベーターがあることが分からないとか、スロープも奥にはあるのにスロープがあることが分からないからこの階段の上のお店に入るのを諦めたりとか、そういう状況になっていました。皆さん意見を言われていたので、これから分かりやすくなっていくと思いますが、名駅付近とか地下鉄の乗り換えとか、特に栄のあたりは途中まで行ったら表示がなくなるとか、そういうことがよくありますので、これからアジアパラ競技大会を開催されるにあたって、公共交通機関については丁寧に最後まで行きつくことができるような表示が必要なのではないかなと思います。表示は曲がり角のところに飛び出る形で付けていただければ分かりやすいのではないかと思いますし、矢印もできるだけギリギリのところまで矢印表示を付けていただくとか、通路に矢印を付けていただくとか、そんなのが分かりやすいかなと思っています。昔、自分が住んでいたところの市民病院は、赤い矢印をたどって行ったら会計に行きつくとか、緑の矢印を通って行ったらレントゲン室に行くとか、そういう分かりやすい表示がありました。

2番目としては、さっき岡田委員も言われていたように「センサリールーム」や「カームダウンスペース」の必要性があるということです。特にセンサリールームは、音が苦手な子がいることで家族が観戦に行けないとか、そういう人たちに望みができるようなものだと思いますので、そういったセンサリールームを1か所とは言わず、何部屋かあると嬉しいなと思います。全員がそこに行けるわけではないですけども、たとえ抽選でもそういった部屋があると嬉しいなと思います。

3番目は、先ほども言いましたけれども、知的障害がある人にとっては案内してくれる人も大事で、障害に理解のある人が必要だと思っています。今も、北区の民生委員さん270名を対象に疑似体験をしてきました。民生委員なので、元々、高齢者の見守りされていますけれども、知的障害がある人とか障害のある人への理解というのが、この疑似体験をやったことで、今までよりさらに深まったという感想をいただきました。ボランティアさんとかスタッフさんには、事前に机の上だけの研修ではなくて、実際に障害がある人に関わったり、こういった体験のできる学習会とか研修会とかがあると、当日よりその方たちに支援はどうしたらいいかということが分かっていただけだと思いますので、ぜひ取り入れていただきますようお願いいたします。

大槻副座長

パラスポーツという立場からお話をさせていただきます。このパラスポーツという言葉、東京パラリンピックが終わって「日本障害者スポーツ協会」が「日本パラスポーツ協会」と名称を変えました。スポーツ庁もパラスポーツという名称を使っています。ただここで誤解されるのはトップレベルの人たちだけのスポーツかということではなくて、三障害の方全部、それからレクリエーションのスポーツも含めて、障害のある方々のスポーツの普及啓発に努めるという意味のパラスポーツでございます。

さて、私自身も過去のアジアパラ競技大会の5大会、日本選手団として参加してまいりました。中国を除いて、他の開催国は既存の施設、スポーツ施設を改修して車いすの方でも義足の方でも使いやすいように大会運営をしていました。既存の施設ですから、かなり苦労した経験も記憶にございます。今回、選手村はないんですけども、日本選手団の選手、スタッフは大会会場までの移動については、組織委員会が全部自動車

を用意してくれます。ですから選手団の人たちはアクセシビリティにあんまり困らない。むしろ障害のある方々が大会を観戦するため、公共交通機関で移動する時にかなり苦労したというお話を過去何回か聞いています。ですので、2026年の時は大会を見に行く障害のある方々、それから選手団に入れなかった障害のあるアスリートの方も大会を見学に行きますので、公共交通機関が使いやすいように、どの障害のある方にも使いやすいようにしていただければと思います。

あと、スポーツ施設が障害のある方々が使いやすくなれば、当然その地域に障害のある方がスポーツをしに行きます。そういうことをその地域の方々が見ることによって、やはり街は変わっていくと思います。一つの例に、東京の北区に、オリンピック選手対象の「ナショナルトレーニングセンター」という歴史が古いスポーツ施設があります。東京パラの前にパラアスリートのために拡充棟ができました。トップアスリートが毎日練習に通っています。当然、練習が終わると施設の周りで買い物をしたり食事に行ったりと、色々街へ出るんですよ。そうすると古くからある街ですから結構段差があるんですけど、車いすの方、義足の方、それから視覚障害の方が買い物に来たりすることによって、自分の店がスロープがないということで、自費で街が変わって、今では大変使いやすい街になっています。ですので、愛知・名古屋のアジアパラ競技大会のレガシーとしてやはり街が変わっていくということをぜひ念頭において、今後いろんな意見を集約していただければと思います

村井副座長

私がパラスポーツに興味を持ったきっかけは、長野パラリンピックでした。現地に行く機会に恵まれ、現場でスキーを見て感動というか、かっこいいなと思いました。その時、すごいなと。今大会もなるべく現地で、いろんな方が見ることができるといこと、それをリアルに体験することはとても大事だと思いました。

そういう中で、たぶんアクセシビリティというのが色々関わってくるのかなと思います。その中の一つにはもちろん、街のハードウェアとか人のソフトウェアもそうだと思うのですが、やはり広報とか報道していただく機関の方々にもやはりその素晴らしさとか、例えば事前に段々盛り上げていような報道とか、大会期間中はやはりしっかり盛り上げるような時間をとっていただくとか、しっかりテレビで流していただくとか、やはりそういうことも必要かなと思いました。それもアクセシビリティなんだろうなと思います。

今回の様々な意見でかなり重複するところもあると思うんですが、今回の対応、いろんな対応が将来にわたって価値のあるものにならなければいけないというのは、まずあると思います。私は建築が専門ですが、今回は既存施設の活用ということで、所有者の方とか管理されている方が色々対応いただくことになると思うのですが、それが単にバリアフリー対応ということではなくて、やはりそうすることによってより多くの方が使える、より長い期間使えるということで、結局運営する側、所有している側の方にとっても利益があるということになっていくといいなと、そうしていければなと思っています。あとは、これはハード・ソフトの話が何度もありましたけれども、やはりハードで対応する部分とソフトで対応する部分、あとそれと融合する部分はやはりしっかり考えていく必要があるかなと思っています。あとは建物とかバリアフリー化というと、どうしても段差をなくすとか部分的にだけしていくことが結構ありますが、やはりそうすることによって建築全体がどういうふう安全性が高まるか、アクセシブルになっていくかという部分だけではなくて全体を見た上でも対応を考えていく必要があるかなと思いました。

磯部座長

皆さんからご意見なり感想なりをいただきました。まずはご意見部分について、事務局側の方でお答えできるところがございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

事務局(愛知県)

委員の皆様には、本当にたくさんのご意見をいただきました。ありがとうございます。私ども開催都市は、大会の周りの色々と応援する側、例えば盛り上げを図るとか、そういう立場からご質問いただいたところについてお答えをさせていただきたいと思います。

まず辻委員からいただきました、愛知県でも、宿泊施設に関する補助制度を検討してはどうか、というお尋ねにつきましては、関係部局と連携をしながら検討してまいりたいと思います。

もう一つ、広報のお話とか、大会を盛り上げるために、特にパラ競技の普及とか、こういったところの視点でもご質問いただいております。まず、体験会というところは、これまでも色々な場面で、特にパラスポーツについても行っておまして、実際には色々な皆様に体験会を通じて理解を深めていただくという場も設けさせていただいております。当然、これから大会に向けてあと3年ちょっととなりましたので、こういったところの取り組みを進めながら皆様にも大会やパラ競技を知っていただき、盛り上げにつなげる、それが最終的には障害のある方への理解であったりとか、また、多様性や共生社会の実現であったり、こういったところを最終的には目標に持って進めていきたいと思っております。

それから、広報に関しては、大きく2つの手法があると思っています。1つは、例えば、地元のお祭りなどに入って、草の根的にアジア競技大会、アジアパラ競技大会を広めていく方法と、あとタイミングを見ながら大会・イベントの時期を見て広報していく方法、大きく2つの手法があるかと思っています。今年9月から10月にかけて、中国・杭州で大会がございますので、このタイミングをもって開催都市としても次の愛知・名古屋大会の広報をしっかりと打っていこうと思っております。また、今年12月には、私どもの大会の1,000日前を迎えますので、こういったところにも効果的に広報が打てるように準備を進めております。

事務局(名古屋市)

今回のアクセシビリティ・ガイドラインを作るということで、まずはこの名古屋という街を、バリアフリー化を促進するという目的もこの大会を契機に進めていきたいという思いもあります。大会まで3年半という短い期間の中で、まずは競技会場とそこに至るまでのアクセスルートというところを中心にはやっていきたいと思っています。また、大きな主要な駅などは長期的なスパンで整備していったり、まちづくりの観点も入ってきますので、そこはそういった計画との整合を図る必要もあるのかなと思っています。ただ、名古屋駅の案内表示など色々な見にくい部分だとか分かりにくいところ、そういったところは色々関係する部局と話をしていきながら、こういった形で見やすく分かりやすくできるのか、といったところの工夫についても考えていきたいと思っております。

また、子どもへの教育、小学生、中学生等の教育ですけれども、昨年度から名古屋市としてはSDGsと絡めまして、学校でボッチャですとか車椅子体験、ゴールボールの体験というものをやりながら、子どもたちにSDGsの取り組みと合わせて、この大会がどうつながっていくのか、コンセプトとどう繋がるのかというところを考えてもらったり、そういった取り組みもしております。これらいろんな課題があると思っております。心のバリアフリーにつきましても、関係局で進めておりますけれども、これからどんどんまたこういった大会を契機に進めていきたいと思っておりますので、今回ご指摘いただいた点を踏まえて、各局と色々相談しながら進めていければなと思っております。

事務局(組織委員会)

たくさんのご意見をいただきましてありがとうございました。

まず、横文字が多くて分かりにくいという加賀委員のご発言について。カタカナを使うことで分かりやすいとか、定義が分かりやすくなる言葉もたくさんあると思いますが、ひらがなや漢字を使って、日本語として分かりやすくしていくという工夫もしていければと思っております。また素案の方をまとめてまいります際に、ご意見いただければと思います

佐藤委員から技術的な点も含めてたくさんのご助言いただきました。具体的に教えていただいた数値も踏まえて検討してまいりたいと思っております。車いす席の垂直水平分散については考慮していく必要があるという認識は十分ございますが、一方で安全に配慮した座席の配置というのも必要だと思っております。私ども既存施設を使うという構造上の課題もあるものですから、そういった避難経路などにも配慮しながら可能な範囲で垂直水平に色んな所に車いすの方にも、見ていただける席をご準備できれば、と考えております。

あと、たくさん委員の皆様からトレーニングについてご発言をいただきました。当事者にトレーニングに参加してもらったらどうだろうか、疑似体験を試みたらどうだろうか、そういったご意見もいただきました。今年度、組織委員会では、まずは職員向けにということではございますが、障害の理解に関する研修を行っております。先日は、ボッチャの選手でもある大学生の方に来ていただいて、通学の際の日々のお困り事や、ボッチャで遠征に行った時のエピソードなどのお話をいただき、質疑応答でもたくさんお答えいただきました。今年度から色々そういった形で様々な障害当事者の方に来ていただいて、意見交換するといったことに取り組んでおります。また各委員の皆様の方にも個別にご相談させていただく機会もあるかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

あと、表示や案内についてたくさん委員の皆様からご発言がありました。表示に関しては、視覚に訴える表示、音声案内、それらを組み合わせ、様々な障害のある方に分かりやすい表示が必要だということで、今日ご意見賜りました。また、Webサイトについても、分かりやすいものを作っていかなければいけないとも思っております。この辺りをまたガイドラインの方でも検討してまいります。具体的にここが分かりにくいよ、とかそういうのがあれば教えていただけたらと思います。私どもも気づけば当然直しますが、なかなか気づかない点もあるかと思っておりますので、引き続きご指導、ご助言が賜われればと思っております。

最後に、廣瀬委員から、障害者の方が住みやすい社会は全ての人に住みやすい社会、というご発言がありました。全くその通りだと思います。この大会が障害者の方に過ごしやすい大会であれば、様々な観客の皆さんに過ごしやすい大会、様々な選手の方に過ごしやすい大会になるかと思っております。組織委員会としては、大会の運営の方を頑張っ取り組んでまいりたいと思っておりますので、どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。

磯部座長

私から今日の感想というか、まとめをさせていただきます。

スポーツ全般に言えるんですけども、やっぱり国民、皆が好きですね。例えば、ニュース番組には各局必ず、気象情報、天気予報とスポーツのコーナーがあるんですよ。スポーツの内容はその時によって色々違うんですけども、必ずある。生活に必要なものであると考えても良いのではないのでしょうか。

委員からは、アスリートの立場からの苦労話もございましたし、それを観客の立場や応援する立場からの意見もありました。スポーツって何が楽しいかという、もちろんアスリートとして行う、体を動かすことも大事ですけども、それを見ることによる楽しみ、また応援する、ファンになる、それも大事なですね。ただそういうのが段々膨らんでいくと、みんなが仲良く暮らせる街になってくるかなと思います。どうしてもオリンピック・パラリンピックに比べると、アジア競技大会はちょっとマイナーな感じがあるんですけども、開催都市としてはそんなこと言ってはいられませんので、すごく盛り上げていくことが大事だと思います。今回の中国大会を盛り上げていって、それを契機に当地を盛り上げていって、いろんな試みをやっていくといふそういうことが大事かなと思います。「ア

ジアのすごい選手がいるんだ」とか「3 年後に彼らが来るんだ」って、これも楽しいじゃないですか。総合スポーツ大会だからこそのいろんな楽しみ方ができるので、いろんな関係で盛り上げていって、その結果街が良くなるという流れができたらいいかなと思っておりますし、私も協力していきたいと思えます。

今回のアクセシビリティ・ガイドライン。「アクセシビリティ」という言葉、確かに難しいですね。あえて日本語にしますと、「近づきやすさ」「利用しやすさ」という意味です。誰もが利用できる、誰もが情報に近づくとか、施設に近づくとか、乗り物に乗れるとか、そういう利用できるための手引き書という意味でございます。また色々と工夫していただけたらと思っております。

次回検討会では、「ガイドライン素案」について議論できるよう事務局に準備をお願いし、本日は終わります。